

平成 26 年 3 月 31 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 原田 義則



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。
会派 創風会

記

1. 期 間 平成 26 年 2 月 5 日～2 月 7 日
2. 視察又は訪問先
 - (1) 大分県玖珠郡九重町 エルランチョグランデ
内容 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて
 - (2) 熊本県阿蘇市 阿蘇市役所
内容 地域ブランド戦略について、「然」の取組について
 - (3) 福岡県宗像市 道の駅 むなかた
内容 施設見学等
3. 調査経費 31,227 円
4. 各視察先の調査内容 別紙の通り

【九重町 エルランチョ グランデ】取締役 瀬戸年美 氏

〈1〉視察に至った経緯

金城町の乗馬施設、金城ウエスタンライディングパークが、新たな指定管理者の元、リニューアルされました。

この施設が浜田市の新たな集客施設として、生まれ変わり、地域が活性化する事を願い、先進事例のウエスタン乗馬牧場エルランチョグランデの取組みを視察した。



〈2〉 調査項目

- ① 施設見学[大分県玖珠郡九重町田野 1726-320 ウェスタン乗馬牧場エルランチョグランデ]
- ② 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

視察当日は、大雪で周辺施設も観光客が居ない状況でした。そのような中、瀬戸代表を含め数人のスタッフで施設を見せて貰いました。

簡素では有るが、宿泊施設を併設した学習施設として整備され、建物の配置等創意工夫が見られた。

オープン当初、周辺の食事をする所は4軒しか無く、レストランを併設し顧客ニーズに対応していたが、観光客も増え食事処が増えたので、乗馬施設本来の業務に専念、周辺のホテルへ顧客を紹介し、ウィンウィンの関係作りで地域と共に発展をし、冬場の閑散期は最低限のランニングコストのみで、施設やホテルもサービスを提供する事で、地域と共同体の意識が醸成された。

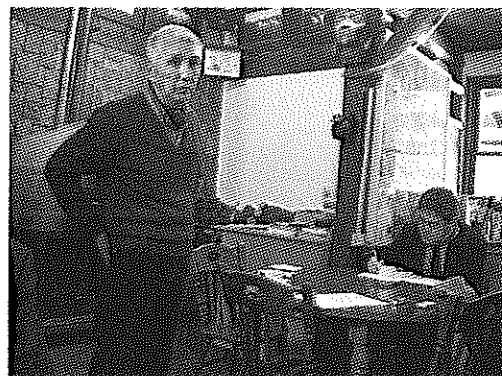
牧場体験で修学旅行等も受け入れ、ホースセラピーを取入れて、障がいの有る方の様々なニーズにも対応している。

〈3〉 所感（まとめ）

今迄何回か、金城ウエスタンライディングパークに来ておられる瀬戸代表から色々話を伺うことができ、これからの運営上の大きな参考になったと思っています。当初ウエスタンは馬の仕入れなど初期投資が余りにも大きく問題があったと指摘されています。施設は日本一の施設であり、儲からないはずがないとのことでした、新年度から始まるホースセラピーや地域の連携も大きな力になるとの事でした。この視察を参考に情報提供しながら素晴らしい施設になるように我々もバックアップしていきたいと考えています。



雪のエルランチョグランデ



瀬戸代表の講演

【阿蘇市 阿蘇市役所】阿蘇市議会議長 阿南誠蔵 氏

経済部 観光まちづくり課 課長 吉良玲二 氏

クリップ株式会社 代表取締役 曾谷哲朗 氏

〈1〉視察に至った経緯

久保田市長が元気な浜田づくりを掲げられ、第一に産業振興と言われました。また、浜田の宝探しもするとの事で、参考になる熊本阿蘇市の取組み事例を、視察致しました。

昨年10月より始まった『然』の取組みは、マスコミにも取上げられ、全国から注目される所となっています。阿蘇市役所を訪問し、これまでの取組みを伺いました。

調査項目

① 地域ブランド戦略について ② 『然』の取組について

阿蘇市は阿蘇山をかかえ、昔から観光地として多くの観光客が押し寄せていました。しかし近年は旅行の多様化により、団体から個人へとシフトし入込客は100万人に落ち込みました。阿蘇市観光まちづくり課が音頭を取り、クリップ株式会社の曾谷氏に阿蘇市の活性化と地域おこしを依頼、ものと人に焦点を当て、ストーリーを作り、あるがまま＝然、を立ち上げました。人との出会い、ものとの出会い、それを風景に織り込み阿蘇市のブランドとして商品にしました。

全国から『あるがまま』の然を求め人が来ています。

〈3〉所感（まとめ）

地域ブランド戦略は浜田市でも「どんちち」として取組みを実施しており徐々に成果が出ていると感じているが、今回の視察で何よりも産業を興すためには、何をするのか、品物を特化してやることの必要性、ブランド名、そしてこの事業に関わるスタッフの人选こそ成功の大きなポイントになることを実感した。



【福岡県宗像市】株式会社まちづくり宗像 常務取締役 藤岡末英 氏

〈1〉視察に至った経緯

(株)まちづくり宗像、道の駅むなかた（現地視察）

①施設見学 ②開設から現在までの経緯と取組

『道の駅むなかた』は平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が対等合併し新市まちづくり計画の中から、生まれました。

宗像市の商工会、観光協会、農業協同組合、二つの漁業協同組合（宗像、鐘崎）で平成19年10月（株）まちづくり宗像を設立、平成20年に福岡県内10番目の道の駅としてオープンしました。

オープン当初から、予想を上回る来客数と売上で、毎年右肩上がりとなっています。

浜田市において、同様の施設、道の駅夕日パーク浜田と、しまねお魚センターが有りますが、近年は客数と売上の減少が続き、厳しい経営状況であります。

道の駅むなかたの経営のノウハウと商品構成等を視察し、浜田と地理的に似通った海山の産物が豊富な、宗像市の道の駅むなかたから、学ぶべきものが有ると考え、この視察を行った。

〈2〉調査項目

福岡県宗像市 道の駅むなかた（現地視察）

① 施設見学

② (株)まちづくり宗像の取組

現地説明者 (株)まちづくり宗像 常務取締役

駅長 藤岡 末英 氏

〒811-3502 福岡県宗像市江口 1172 番地

TEL0940-62-2715 fax0940-62-3874

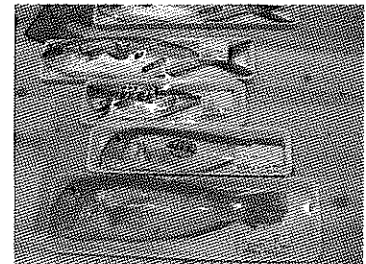
① 施設見学



館内〈売場とレジ〉



生産者の写真



鮮度第一の魚〈釣り〉

② 事業取り組みの状況

- 基本的に商品は、市内の生産者又は市内で加工された物に限る。
- 生産者と直接契約、会社としては仕入れ無し、委託料 12%〈最大 16%〉が収入源。
- 生産者が直接持込んだ、釣り物の魚と朝採れの野菜、その加工品の販売。
- 商品はその日で完売(POSで売上状況を把握し生産者にメールで通知)、売れ残りは生産者がその日に持帰る。
- 支払いは月末締め翌月 10 日払い
- 毎月各種の研修会を生産者向けに開催、品質の向上と販促に研鑽している

③ 施設の運営状況

- 営業時間：10月～5月（9時～17時）6月～9月（8時半～17時）
- 休館日：毎月第4月曜日
- 売上：平成20年12億8千万円、平成24年16億4千万円
- 来場者数：平成20年139万人、平成24年163万人
- 客数：平成20年63万人、平成24年75万人
- 客単価：平均2300円（他所より1000円高い）
- 購買層：50代以上が半分を占める
- 地域性：市街88%（福岡23%北九州35%筑豊20%その他22%）市内12%
- 部門別売上：水産物37.2%・農産物32.4%・加工品28.1%・他工芸品
- 宗像市に指定管理料として1100万円/年、収益の30%を寄付(平成24年度1000万円)株主に10万円/年の商品券
- 現在利益剰余金は2億円積立

〈3〉所感（まとめ）

福岡市や北九州市等の大都市圏から約1時間の距離にあり、週末のドライブにはもってこいの場所で、浜田市に通じるものがあつたように思う。浜田市の「お魚センター」も「むなかた」のように、生産者と消費者が連携し直接やりとりのできるようなシステムが構築できれば新たな集客につながるのではないかとと思われる。水産物、農産物とも地元産が主流であり生産者は登録制をとっており消費者に、より安心感を与えるような施策が取られている、又「道の駅むなかた」食と暮らしと文化の季刊誌が発行され消費者、生産者、道の駅むなかた、を結ぶ大きな情報発信の力になっているのではないかと感じた。今後の参考になることが大であった。